

○2期Bさんから（下線部分は都支部より）

東京都支部事務局御中

大変お世話になっております。

最終日の締め切りにぎりぎりになってしまいました。

このコロナ禍中、総会のメール返信に多くの時間を費やしてくださっている支部長はじめ役員の皆様に感謝申し上げます。

4号議案について皆様のご意見またそのご返信を拝見いたしました。

まず、ここ何年かの食育授業のスタッフ集めに役員の方がたがどれほどの時間を割いてこられたか（これについては無報酬であること）また、昨年桑原支部長が食育授業依頼を直接受ける新たな試み（国学院久我山中の件）をされてきたことも十分承知しており、心から感謝しております。

しかしながら食育プロジェクトを立ち上げから関わったものとして、今回のプロジェクト廃止は大変残念なことでもあります。

都支部からの返信の中に「講座の開き方」講座を企画しているとありましたが、この食育授業は、個人で講座を開いたりするにも、セミナーの段取りや茶種についての説明等、体験しながら知識を得るのに役立つものであったと思っています。

子供に説明するには、自分が本当に理解して、それをかみ砕いて伝えていくことが大事で、大人に説明するにも子供に説明するのと同じ方法がかえって理解していただけることを実感してきました。

食育プロジェクトが、都支部の会員の方にこういう点をアピールできなかったのではと残念に思います。

食育活動に数多く参加された方が、貴重な経験を積まれ、インストラクターとしての技術を磨くことに大いに役立ったはず、ということについては、全く異論はありません。その効果について、会員に伝わらなかったことが問題だったのか。そうかもしれません。しかし、実際にスタッフ探しをする際にお声をかけた方から聞かれるのは「参加する為の時間的余裕がない」と言う声がほとんどです。実際には「無理をして参加するまでの価値を見出せない」とお感じになったのか、それはわかりません。しかし、どんなに意義のある活動であり、自分のスキルを上げることにもつながる、と思ったとしても、その為に仕事やその他の事情を押し参加する、ということは本当に難しいと思います。この現実には役員やチーフの努力などでどうにかなるものではありません。

プロジェクトが廃止となることで新たに都支部会員になられる方の体験の場は少くなりますが、それについても致し方ないとの支部長の発言があったかと思います。

体験の場が少なくなるかどうかは、会員お一人お一人のお気持ち次第だと思います。都支部役員会では、今後の案として、組合の食育事業の募集、応募受付の業務は引き続き行う考えです。食育活動に参加したい、と思えば、いままでと同じように応募なさればよく、会員にとって、不利益はないと判断しています。もちろん、これまでのように、「何としてでもスタッフを探して授業を成立させる」という義務を背負う人間がいなくなれば、開催数は減る可能性はあります。それはもう、致し方ない、としか申し上げようがありません。参加したい人がいないことには、どうしようもありません。

もう一つ思うのは、プロジェクトを立ち上げたとき、本当に零からの出発でしたから、試行錯誤、冷や汗が出るような失敗と改良の繰り返しでした。

大変でしたけど、何かを創造していく面白さや楽しさがありました。が、今のレッスンプランや実施詳細にしても、皆さんが動きやすいようにと必要に応じて作ってきたものが、食育授業に参加する皆さんの重荷になってきていたかもしれません。

既存のプログラムを完璧にすることに力を費やし、もう少し自由に楽しく教えることが後回しになってしまったのかなとおもいます。

これもチーフ不足の要因の一つでもあるかと思います。

そうであれば、むしろ、個人活動である方が自由度は高まるのではないのでしょうか。

それにしても本当に廃止しか道はないのか？

廃止を前提にするなら、支部役員の方々がこれが問題と考えていること、

たとえばスタッフ確保をするのはチーフの責任で行う（チーフとの話し合い）・・・

プロジェクトが廃止になったら当然担当するチーフがするのだから

食育プロジェクトの問題点は、「役員がスタッフ探しの苦労をしなくて済む方法」が見つかれば解決する、というものではありません。ご提案のように、チーフの責任でスタッフの確保をする、というのは論外です。もちろん、これまでも、チーフのご協力あつてのスタッフ集めであったことは間違いありません。それでも、最終的な責任を取る、ということとは根本的に違います。役員の労力をチーフが肩代わりして何になるでしょう。Bさんが、食育チーフとして「食育プロジェクトが廃止になるくらいなら、スタッフ探しは自分でする」とお思いになるのであれば、それは食育活動に対する強いお気持ちとして理解できます。しかし、それを将来、チーフになる方に対してお願いできるのでしょうか。現在でさえ、引き受けてく

ださる方は見つからないのです。

組合よりチーフやスタッフに払われる代金のほかに、都支部に何らかの対価が払われる方法はないのか？

組合とのこういう交渉の余地はないのでしょうか？

繰り返しになりますが、費用の問題は、スタッフ不足、チーフ不足に比べれば小さな事です。組合にいわゆる「手数料」の様なものを支払って頂いたとして、支部の財政に余力ができれば、活動がしやすくなることは確かですが、このプロジェクトの抱える問題点の大きさに比べればその効果は小さいと思います。百円茶屋のケースで、都支部の財源として役立っていると申し上げましたが、それは、現在、スタッフの確保が出来ている、という前提があつてのことです。もちろん、その為の努力をしており、担当役員はスタッフ確保の為に色々な方法を講じています。食育にはさらに大きな労力を注ぎ込んできましたが、スタッフ不足を解決する方法は残念ながら見つかりませんでした。

また、スタッフ確保の対価を受け取る、ということは、それだけの義務を負うことでもあります。今以上に、苦しくなるだけではないでしょうか。

私は第4号議案には反対いたしますが、可決された折には、第1回総会メールで回答をいただいたとおり、速やかに組合との話し合いをしていただき、今後の食育授業が（現状において、すぐに食育授業が再開されることは考えにくいですが）円滑に移行できるようお願いいたします。

そのつもりです。今のままでは、食育プロジェクトはいずれ本当に立ち行かなくなると判断しています。持続可能な方法を探ることは、現状に目をつぶるより建設的ではないでしょうか。「現在のスタイルの食育プロジェクト」は行き詰まっていますが、食育そのものについては、全く否定するものではありません。組合事業の食育だけが食育ではありませんし、また、組合の食育への会員の参加も、あるに越したことはありません。誰がどこまでの義務を負うか、のバランスの問題です。

大変な状況となってしまいましたが、どうぞ役員、都支部会員の皆様がコロナウイルスの脅威にさらされることなく、少しでも早く支部の活動が再開できますことをお祈りいたします。

B（2期）

1年間、Bさんには本当にお世話になりました。食育の初期メンバーとしてプロジェクト立て直しの為に貴重な助言を下さったこと、心から感謝しております。

総会の結論がどうであれ、令和 2 年度も食育プロジェクトは継続しています。持続可能な食育活動のために、お力を貸して頂けることを切に願っております。